

聖火には、平和と希望のメッセージが込められている。西庶路在住の大野志乃さんは、東京オリンピックの聖火ランナーに応募し、選ばれた。

「5年前に乳がんの手術をして、今は経過良好なのですが、今も闘病生活をしている人たちがいますので、その人たちに私が元気に走っている姿を見せて、励ますことができたらいいなという思いがありました。もう一つは、いじめや虐待を受けている子どもたちに『力になってくれる人がいるから、諦めないでね』というメッセージ

を伝えたいという思いがあり、聖火ランナーに応募しました」

残念ながら新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受けて、道内全自治体での聖火リレーは中止となったため、大野さんは走ることができなかった。

「こういう状況ですので、予定通りに走ることはできないだろうと思ってはいたのですが、実際に中止となると、自分の中で気持ちの整理が難しかったです。これまで走ったり、体力をつけたりと準備を進めてきましたから。せめて、自分の思いをどこかで伝える機会

がほしいな、とは思っていたんです。そうしたら先日、聖火リレー北海道実行委員会が、私たちのメッセージを動画でまとめて発信する「言葉のリレー」というイベントをやってくださいました。また、町でも未来を担う子どもたちに、私の思いを伝えることができるという機会を作ってくださいました。とてもありがたかったですし、これで私が聖火ランナーに応募した意味があったのだと思います、納得できました」

大野さんにこれからの目標を聞いてみた。

「こうして聖火ランナーに選ばれたのは何かしらの意味があつてのことだと思っていますので、自分にできることがあれば、小さな一歩でもいいので、前へ踏み出していこうと思っています。私は教員をしていますが、最近になって、大人がキラキラしていないと、子どもたちも輝けないうようになって思うようになりました。子どもたちもいろいろな不満を持っていて、私の前でも『学校が好きじゃない』と言ったりします。そんな子どもたちの前で、大人が暗い顔をして、つまらなそうにしていたら、子どもは明るい未来を想像できないと思うんです。今が満足できなくても、辛いことがあっても、それを乗り越えたら楽しいことが待っているよ、大人は楽しいよっていうことを身をもって教えないと、子どもたちは夢を描けない。大人が生き生きすることで、子どもたちにもすごく良い影響を与えるのではないかと思います。ですので、これからも楽しみながら、いろんなことに挑戦していきたいなと思っています」

大野志乃

おおの しの

1965年11月9日生まれ。白糠町出身。小、中学校ではバレーボール、高校ではソフトボール部に所属。白糠高等学校卒業後、駒澤大学苫小牧短期大学で教員免許を取得。現在は釧路市内の小学校に勤務している。趣味は読書。



「大人がキラキラしていないと子どもは夢を描けない」

※大野さんが所有する聖火トーチは、11月15日から12月8日まで町内の各学校で巡回展示された後、12月9日から年末まで役場ロビーにて展示する予定です。ぜひ、ご覧ください。



11月4日、大野さんが役場で陸上スポーツ少年団の選手たちにトーチのお披露目をしました。